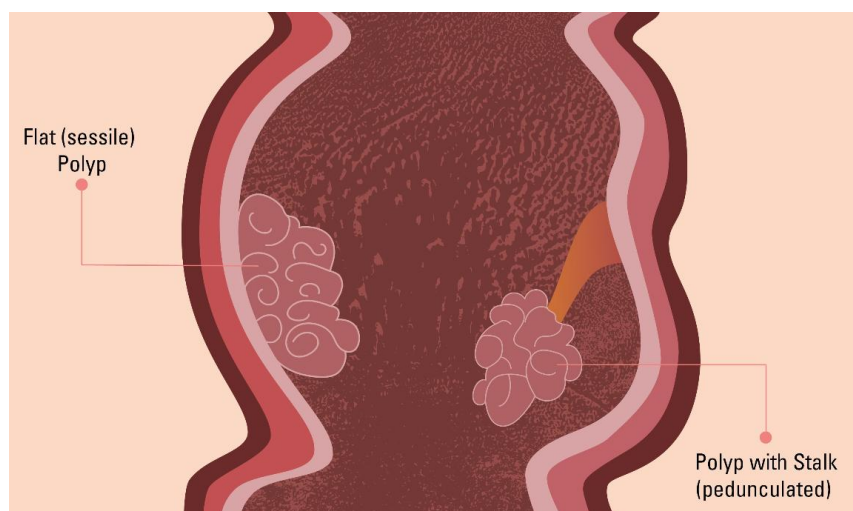
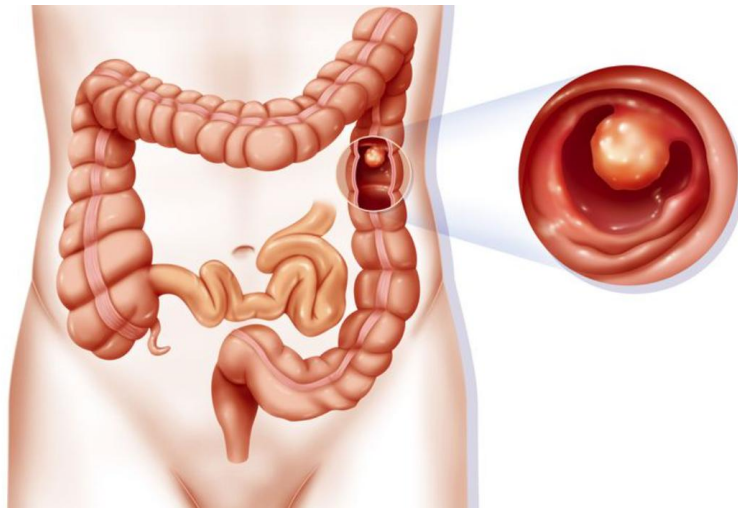


大腸ポリープ発見後の大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査で、特定の種類や大型の腺腫あるいは複数の腺腫がある場合には、大腸がんに行き渡るリスクが高く、ガイドラインでは3年以内に大腸内視鏡検査を再度受けることが推奨されています。これは『サーベイランス大腸内視鏡検査』と呼ばれ、大腸がんの予防や早期発見率を高めるものであります。



米国では、大腸内視鏡検査で大腸ポリープ（腺腫）が見つかったとしても、多くの人は推奨される時期に再検査を受けていないことが、「Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention」誌に報告されました。



60～74 歳の患者は、50 歳代前半の患者に比べて適切な時期に再検査を受ける確率が高かったのに対し、80 歳代になると再検査率は低下しました。